

シルバー

ところざわ



No.56

◆発行 社団法人 所沢市シルバー人材センター広報部会 1996 10月号

県指定記念物

三富開拓地割遺跡（所沢市大字中富・下富）



写真の遺跡は、今から丁度300年前の元禄7年、川越城主であった柳沢吉保によって、川越から方位をたて、上富・中富・下富村と命名され総称して三富（さんとめ）、或いは留村と言われ、今にして感嘆に堪えない程の見事な地割遺跡です。幅約72m、奥行約682mの短冊形に地割りして1戸分とし、道路に面して屋敷、耕作地、山林の順に仕切られ、まさに名君と言われた方の証左でもある今に生きる偉大な遺跡です。遺跡の周辺はまだ武蔵野の面影を十分に留める自然林、名刹多聞院など昔時を偲びながらの散策を楽しめる地域です。ご存知ない方は一度訪ねてみて下さい。

平成8年度

「シルバー人材センター事業普及啓発促進月間」運動の展開!!

平成8年度「シルバー人材センター事業普及啓発促進月間」運動が全シ協主催のもと、全国的に展開されます。当センターも主催に基づき下記により運動が展開されます。

会員各位が運動の趣旨をよく理解されるとともに積極的に参加され、センターの普及啓発と発展に寄与されることを願う次第です。

1. 運動の趣旨

シルバー人材センター事業の理念を広く、かつ正しく市民各層に浸透を図るとともに、社会一般の本事業に対する意識の啓発並びに増進に努め会員の拡大を図る。また、安全就業を積極的に推進するとともに、発注者に対してセンター事業の理念、意義、仕組み等について正しい理解と協力を求める。

2. 運動期間

自平成8年10月1日～至同年10月31日

3. 当センターで実施展開する事項

(1) 会員確保のための運動

イ. 会員の粗入会率（60歳以上人口のシルバー人材センター会員への加入割合）全国平均1.9%に対し、当センターは1.52%と平均を下回る実態があり、構成内容等を充分検討、全国平均達成を期する。

ロ. 10月26日開催の市民フェスティバルに参加、会員手作りの各種作品の販売その他により、センターの積極的PRを行なう。

(2) 仕事拡大のための普及活動推進

イ. 市内主要事業主（所沢商工会議所所属役員並びに、1、2号議員100余名）の方々に、理事長名で会員就業開拓（発注）について文書要請する。

ロ. 市広報「ところざわ」に、シルバー人材センター事業内容、仕組み、発注方法等記事掲載を広報広聴課に依頼、随時掲出。

(3) 福祉、家事援助サービス事業の拡大

イ. 本年度当初の4月より専任の担当者（コーディネーター）を採用配置、すでに着実な実績を収めているが一層の拡大に努める。

ロ. 本事業の主たる要員となる女性会員の積極的登録を求め一層の充実を図る。

(4) 安全就業運動の展開

イ. 安全委員による会員就業現場巡回訪問を一層充実し、安全就業の万全を期す。

ロ. 会員安全就業研修会の開催（秋の研修会10月15日開催）

ハ. 各地区懇談会（11地区）に安全委員が出席、安全就業の確保について要請する。

(5) 就業率の向上について

イ. 未就業会員の意識転換を地区懇談会、その他機会をとらえ、積極的に求める。

ロ. 会員のニーズに適した仕事の開拓に努める。

=安全委員会=

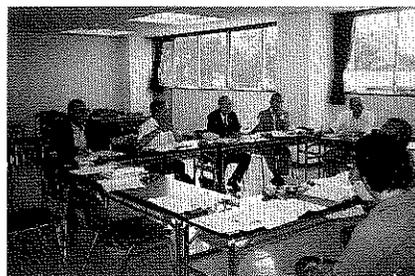
安全委員、（社）国分寺市シルバー人材センター見学研修訪問!!

暑さも癒え、そこはかたく秋の気配が漂いはじめた9月18日（水）、当センター安全委員会では、長野委員長他全委員6名で東京都の（社）国分寺市シルバー人材センターを見学研修訪問いたしました。国分寺市は、ご存知のとおり、東京都北多摩地区の一面で、玉川上水の流れを生む湧水池、武蔵野の面影残す森や林、農地も点在する人口10万余のまだ緑を残す住宅主体の地域でした。

シルバー人材センターもそんな地域の住宅街の直中。当センターと同じように市の社会福祉協議会など福祉関係各団体が同居する福祉センター内2階の一面でした。予め連絡を致してあった14時ピッタリに到着。ご多忙の中、和地・青木正副会長さん、梅田専務さん、並びに萩原事務局次長さんお揃いでお出迎えを頂き、先ずは恐縮する。早速に会議室の方へご案内をいただき、萩原次長さんの司会で先ず長野委員長訪問の挨拶、そして和地会長さんから歓迎の言葉を頂き本題に入りました。

安全管理委員長を兼務担当される青木副会長さんから、主として安全管理委員会の構成・運営、活動と会員事故の発生状況、並びに事業実績等について予めご用意頂いた資料に基づき詳細説明をいただきました。

参考とさせていただく事項が多々ありましたが、第一点は、安全就業確保のための管理機構が基本計画を企画・立案する安全管理委員会と、これを具体的に推進する「安全対策推進員」10名が各職群から選任され、就業現場を巡回指導に当たるといふ二重の組織により万全を期されていたこと。第二点は入会時に全員に「安全就業ワッペン」を交付、職群を問わず就業時には必ず着用するなど、その他多くの参考事項を伺うことができました。



説明を聞く長野委員長他各委員

今後当センターの活動の中で、是非活用させていただきたく思います。従いまして平成8年度に入っ
ての事故発生状況は、当センター6件に対し3件と好実績を収めております。その他平成7年度の事業実績も、当センター2億8,300万円に対し2億2,800万円と、会員1人当りでは当センター39.8万円に対し45.6万円と15%程高い実績を収めておられました。比較的短時間の訪問でしたが、資料等事前に充分にご用意、充実した内容を見聞させていただき意義ある研修訪問でした。

同センターの今後ますますの発展と、役職員会員皆様のご健勝を祈念申し上げ、一同辞去させていただきます。

折角守った健康!!

安全就業推進員 設 楽 昭

今年もまた残暑を含め厳しく長い夏でした。

今さわやかな錦秋の季節、あの暑さに耐え頑張られた会員の方々のご苦勞には唯々頭が下がる思いです。そんな会員皆様のご努力で当センターの本年度に入ってからの実績は、依然として低迷する経済情勢の中にもかかわらず、対前年比増収を確保していると聞きます。喜ばしい限りです。

そんな中、無災害を悲願とする安全就業面は如何でしょう。今年度に入っ
ての事故発生件数は下表のとおりで、物件（賠償）2件、傷害4件の計6件。昨年同期比物件事故1件の減少に止まり、目指す悲願とは程遠い結果です。

特に表でもおわかりのとおり傷害事故4件が全部自転車利用による通勤途上に発生しています。うち2件は信号機の無い交差点を不用意に横断しようとしたことによるものです。幸い、重大事故には至りませんでした。紙一重の差で充分その危険を伴うものでした。いずれもちょっとした注意、安全確認が足りなかったことによるもので、残念と言うほかありません。そこでつくづく残念に思うのは、折角あの暑さに耐え守った健康を、ちょっとした不用意な行動で失ってしまうことです。

さわやかな秋の流れは早く、またすぐ厳しい寒さの訪れです。しっかり健康の保持に努められ就業に万全を期していただき、その健康を誰一人不用意な行動で失うことのないよう願って止みません。10月から本年度後半に入ります。後半は是非災害「0」達成を期して頑張りましょう。

平成8年度 会員事故（傷害/賠償）発生状況表

（自平成8年4月1日～至平成8年9月30日）

賠償 2件 傷害 4件

No.	事故発生日月	性	年	就業内容	種別	事故発生要因	備考
1	平成8.5.8	男	79	除草作業（刈払機使用）	賠償	石飛散防止対策不足	乗用車フロントガラス破損
2	平成8.6.26	男	65	通勤途上（自転車）	傷害	信号のない交差点横断に当たった安全確認不足	左手首骨折
3	平成8.6.28	男	70	立木伐採（倒木）	賠償	立木倒木に当たった半断ミス	水道蛇口柱折損
4	平成8.6.12	男	64	通勤途上（自転車）	傷害	踏面の安全確認不足	右手親指捻挫
5	平成8.7.25	女	69	通勤途上（自転車）	傷害	信号のない交差点横断に当たった安全確認不足	前額部陥没骨折、その他
6	平成8.9.5	男	64	通勤途上（自転車）	傷害	上り坂を無理な状態で自転車で越えようとしたため	右足首捻挫

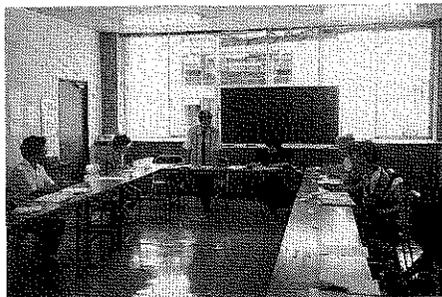
婦人部のあれこれ

婦人部長 石田 静子



こんにちは、婦人部の石田です。まだお会いしていない皆さんもたくさんいらっしゃいますが、副部長の島・和田さんと部の発展を願って仕事をしていきたいと思っています。婦人部では総会の事業計画にあげられている福祉・家事援助サービスの充実発展ということを、最大の目標にあげております。この大きな目標は、あたたかな人と人とのふれ合い、ぬくもりが基本になって良い仕事ができるのではないのでしょうか。

6月5日、局長・次長・斎藤コーディネーター列席の上で最初の三役会を開催いたしました。主な議題は(1)リーダーの選出。(2)事業計画について。この席上で後日補充された地区もありましたが、ほぼリーダーが選出されました。(2)については、フェスティバルに参加することによって、市全域の方々にシルバーの仕事の内容がわかっていただけるように努力する。(3)のその他では、就業に結びついたリフォームの拡充、講演会の開催、旅行の実施などを検討いたしました。6月19日には前回の三役会で決定を見ましたリーダーによるリーダー会。議題は「家事・援助サービスとは何ぞや。」という原点に戻って部員と語り合うということで、名づけて「婦人部のつどい」を開きました。「もっと話し合いたかった」、「先輩の話が聞けた」などの意見や感想、それに旅行の目的地もあれこれ取り沙汰されました。和田副部長に血圧測定をしていただいて一喜一憂して、兼松副理事の終わりの言葉で閉会となりました。8月6日、再度リーダー会。この日までに欠員のリーダーも決まりました。議題は「市民フェスティバルに向けて」。手作りのお手玉、エプロン、ぞうきん、毛糸のたわしなどを販売してPRに努めることになりました。その手作り作業は9月から予定しておりますが、8月から手がけている作品もあります。その他研修をかねた旅行は紅葉の頃、有意義な講演会は新春に、フォークダンスか社交ダンスは3月頃とそれぞれ決まり、私たちの夢と希望はふくらんでいきます。私たちの力を待っている方々のために、皆で頑張りましょう。



婦人部リーダーの集い

福祉の担い手「福祉・家事援助サービス事業」スタート!!

業務係(コーディネーター) 斎藤 小枝美

人口の超高齢化と核家族化により、各地域で福祉・家事援助サービスを望まれる方が増えています。年齢構成が全国的に見ても非常に低いほうと言われている所沢市も、平成7年12月31日現在、65歳以上の高齢者人口が9.15%を占め、21世紀初頭の平成12年には11.9%になると予想されています。

こうした人生80年時代にふさわしい社会づくりに必要なことは「一人ひとりの健康」と「協働システム」です。その担い手として健康で経験豊か、社会参加に意欲を持つ高齢者の「マンパワー」が重要となってきます。

所沢市シルバー人材センターでは、本年度より福祉・家事援助サービス事業に本格的に取り組んで行くこととなりました。

会員皆様のご理解ご協力で、順調な滑り出しを見、発注者の方から喜びの言葉も多々届いております。一方、この仕事を会員に紹介すると、「自分の家では長年家事をしてきたけれど、他人の家に入るのはどうも」と尻込みされる方が居られます。しかし、悪いことばかり考えず、新しい出会いを

楽しむような気持ち、そして手助けを待っている同じ高齢の方を助けて上げようという気持ちで取り組んでいただけたらと思います。

会員の皆さんと、仕事先のご家庭の仲立ちが私の役目、重要な仕事と思って居ります。及ばずながら精一杯努力して行きますので、ご理解ご協力をお願いします。

なお、福祉・家事援助サービス事業を進めて行くにあたり、研修、講習会や交流会を逐次開催いたします。関心を高められ是非ご参加下さい。

私の生きがい

中央地区 石田 智江



家事援助サービスの仕事を始めて一年経ちました。県の生きがい大学で、ボランティアについて勉強している時でしたので、軽い気持ちでセンター会員に登録したものの、仕事を紹介された時は不安が先立ち迷いました。長い間の姑の看病も終わり、これから残された人生は自分のために使いたい、生きがいとなるものを持ちたい、と考えていた時でもありました。主人も息子も、今更他人の家の家事手伝いなどやめると反対されましたが、私は何かやりたい、誰かの役にたちたい思いが強く、この仕事を生きがいにして行こうと、そしてもう少し人生修業をやってみようと思いました。他人の家庭に入るのは大変でした。自分流はいけない、あくまで先方に合わせ何事も辛抱と心がけ、明るく笑って仕事をしてきました。一番うれしいのは、「貴女が手伝ってくれて助かるわ」「お疲れさま」の言葉です。根が軽い性格ですので、すぐ感激して張り切り過ぎて疲れて帰り主人に家事を手伝ってもらいますと、「我が家にもセンターから家事サービスを頼め」とボヤきながらもよく手伝ってくれます。週に二回のお手伝いですが、今は親戚の家に行っているような気持ちになり、少しでも満足してもらえるように努力しています。私にとっては、家事サービスの仕事が、自分の生きがいの一つとなりました。

あれからの私……

中央地区 羽 淵 桂 子



平成7年1月17日……。

日本中を震撼とさせた、あの阪神大震災で、私は家も職もなくしてしまいました。あまりに突然の事で、自分の身の振り方も考えられず、ひとまず長男の近くで暮らしたいと思い、この地、所沢に居を移しました。

初めの半年位は、何をやる気にもなれず、むなしく時間が過ぎるだけでした。「しっかりしなければ……」と頭で理解していても、どうしても身体が動かず、他人様から「頑張ってるね」と励まされても、逆に腹が立つ程の荒れようでした。

そんな時、何の抵抗も感じさせず、自然に話が出来た人が出来ました。近所にお住まいのシルバーの会員さんです。ごこない私をやんわりと包みこんで、シルバーセンターへ連れて行って下さいました。センターの皆さんもやさしく言葉をかけて下さって、ホッとするのを感じました。終生忘れることはないでしょう。今までと仕事の内容は全然違いますが、「何でもしよう、やれば出来る、命があるのだから」と自分に言いかけ、やっと立ち上がることが出来ました。

そうして半年以上たった今、いい会員さん達といっぱいお友達になり、楽しく頑張っております。

「行ってきまーす」

立ち寄ったシルバーセンターから、まわりつくような残暑の中へ出て行く私です。

「気をつけてね」

係の斎藤さんの声が軽く背中を押しました。

高齢社会

新所沢地区 藤原知直



日本は、今これまでどの国も経験したことの無いスピードで高齢化が進んでおり、2020年には4人に1人を65歳以上の年寄りが占めるそうである。今はまだこれが14%だが、それでも1970年には7%にすぎなかった。7%から14%に増えるのに24年かかっているが、ドイツ・イギリスではこれに4、50年、スウェーデンは85年、フランスにいたっては115年もかかっている。7%をこえると高齢化社会、14%をこえると高齢社会と呼ぶのだそうだが、25%にも達した社会はチョウベリーババジ

社会とでも呼ぶ事になるかもしれない。

何年か前、八丈のある小さな離島を訪ねた事があった。小さな港の広場に、くすんだ着物をきて、ばあさんばかり7、8人が日なたぼっこをしているのを船の上から見たとき、黒い虫がうごめく異様な世界に思えた。島には若い者がほとんど見当たらなかった。3人で1人の年寄りを養う……そういう社会がすぐ目の前なのだ。あの黒い虫がうごめく世界が……。「大変だ、大変だ！」と政府も行政もやっきになって警告する。マスコミも特集する。これはこれで政治としては正しいのだが、3人は負担の多さにおののき、1人の方も何だか後ろめたい。これは一体だれのせいだ。

誰の罪でもない。すばらしい衛生行政の成果なのだ。死の病いといわれた結核を撲滅し、乳児死亡率を奇蹟的に低めた国や行政の努力に、たまたまペニシリンなど画期的な新薬の発明が相まったためなのだ。世界がうらやむすばらしい出来事なのだ。すばらしい成果であるはずの高齢社会が、暗いイメージをとまなうのはなぜだろう。おかしいではないか。

高齢社会はたしかに経済は不活発化する。創造力も鈍って文化も停滞するかもしれない。でもそれは、今の数字の線上でただ恐れているだけなのではないか。老人は長寿であると同時に、可働年齢も伸びている。長い期間寝たきりになって死ぬのでは無く、寿命ぎりぎりまで元気に生活する者が増えているのではないか。可働寿命の伸びを考えれば、暗い事はない。人口が増えないのだから、学校を増やす必要もなく、道路も公園も住居も今のままで十分に間に合う社会なのだ。

老人はのろい。きたない。ヨタヨタする。あちこち痛がる。話を通じない……。若者たちの心の底に澁む暗いイメージを我々は打ち壊さなければならない。「老人狩りをしよう」などと言い出す阿呆少年どもがあらわれないとも限らない。

年をとって体力が衰えるのは止むを得ないが、気力は充実しておこう。決して面倒がらず、清潔と美しさを保とう。男だって着るものに気を配ろう。若いばかり者たちにてらうのではない。我々の活気あふれた美しい老人世界を作るのだ。

【随筆】 竹トンボ作り……再びの青春

松井地区 澤田義雄

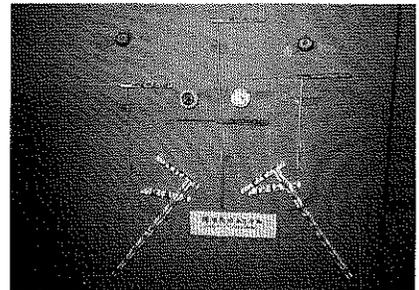
京都と飛騨高山の両祇園祭りと並んで、日本三大祭りの一つとして有名な秩父夜祭り見物の帰りに、お土産屋の店先で竹トンボを見つけた。竹を削って棒を取りつけた何の飾りもない素朴なもので150円の値札がついていた。ふと子供の頃に幼な友達と夢中になって竹トンボを飛ばして遊んだことを思い出し、齢70歳にして童心に帰り竹トンボを作ってみようと思いつく。

人材センターで庭木の手入れをしている人から竹の切れ端をもらい、近くの金物店で工作道具を買い、いざ製作にかかってみると何分にも70年余り前に兄から教えてもらった記憶をたどりながらの試作で1メートルも飛ばずに落下してしまう始末。なぜ飛ばないのか原因がわからないので図書館に行き調べて苦しい時、NHKのテレビ番組で、竹トンボを作って小学校や幼稚園の子供達に寄贈して喜ばれている名人の紹介があり、作品が部屋一杯に飾ってある映像を目にした。

竹トンボのよく飛ぶコツの第一はバランス。そのバランスを見るのにコップの上に乗せて水平であるかを確かめる。次に穴は直角に空けること。ゆがんではいけないうので独得の用具を考案した。心棒が少しでもゆがんでいると飛ばない。心棒の長さは大体、羽根の長さと同じ位がよい。竹を削って羽根を作り棒を取りつけば飛ぶものと単純な考えでいたが、作る程に難しさを知る。限りない程の失敗の連続でようやく飛ぶ竹トンボを作ることに自信が持てる貴重な体験となった。

刃物で指に切傷が絶えず、絆創膏の厄介になり、その上ズボンや上衣を破って山の神の逆鱗に触れ小さな体をより縮めるなど失敗の数々は枚挙にいとまがない。夢中で絵の具を塗っていて何時衣服に絵の具がついたのかわからず、気が付いた時には手遅れで山の神からまた大目玉を喰って平身低頭して謝ったことも数えきれない。幼い子供の遊具であるため、竹トンボの寸法や重さなどにも心を砕き、また色彩をつけることで歓心を高められるのではないかと思っ、配色・模様などにも随分工夫を加えた。そんな苦勞を重ねて作り上げた作品をセンターのウインドケースに陳列販売するまでに至ったが評判も悪くないので、これからも長く続けて行きたいと思う。平和で豊かな恵まれた環境の中にいる今の子供達は自分で遊具を作ることはない。高級で性能の高い物があふれ、好きなものが手軽に入手できる時世である。しかし、手に傷を負ったりいろいろ苦勞しながら物を作り上げる喜びを知らない子供達、本当に恵まれていると言えるのだろうか。いろいろ研究しながら沢山の竹トンボを作ってきたが、本当の会心作は僅かしかない。それでも青空高く吸い込まれるように舞い上がり、5メートルも飛んで行くと、思わず童心に帰って歓喜の声を上げてしまう。ある日、お隣りへ若いお母さんに手を引かれて訪ねて来られた可愛い男の子に竹トンボをプレゼントした。飛ばし方を知らない。教えるのは簡単だが、教えなかった。母子で何回も失敗を繰り返しながらやっと自分の背丈より高く飛んだときの喜びと驚きの表情が顔一杯に広がり、目を輝かし母親の胸に飛びついて行った子供の純心で無邪気な光景を目のあたりにした印象は、深く焼きついている。帰る頃には上手に飛ばせるようになり、笑顔一杯で竹トンボを大事に胸に抱いていた。母親からも何度もお辞儀をされながら去って行かれたのが忘れられない。いろいろあって竹トンボ作りをやって本当によかったとつくづく思っている。子供の頃に大勢の友達と大騒ぎしながら竹トンボを作っていると、色の白い目の大きく澄んだ可愛い女の子が蒸した芋をザル一杯持ってきてくれ、黙って置いて行ってくれたのを皆で分けあって食べた味を懐かしく思い出す。今にして思えば、あどけないあの女の子が好きで憧れていたのであろうか。運命の糸にあやつられて別れわかれになったが、今曾孫達に囲まれて人生最高の幸福な日々を送っていることであろう。

秋の野原を空腹も忘れて暗くなるまで竹トンボを飛ばしながら駆けまわり泥んこになって遊んだ腕白時代の思い出が走馬灯のように懐かしくよみがえる。思い出をより深く心に刻む不思議な魅力が竹トンボにはある。人材センターのウインドウに飾られてから何年になるか、これからも竹トンボの製作に精出して行こうと心にかたく誓っている。



澤田さんの作品

俳句

吾妻地区 湖江 梯子

山茶花や剣に気魄の中学生

吹割の滝を閉ざして山眠る

日脚伸ぶ雲ゆるやかに観覧

車 片栗の花に咬く独り言

山桜一揆の札所の鐘を打つ

菖蒲田の絵を画く後ろそつ

と抜け 馬鈴薯の花は三坪に老楽し

だまされて共に笑への万愚

節 水涸れて畑も草木も恵待つ

烏瓜触れる電工命綱

短歌

松井地区 三村 絹代

夏の午後目にしみ入る玉の

汗木蔭に入ればつゆ草のゆ

れて 長男が祝にくれしウオーク

のシューズをはきて旅に出

る チリチリと気ぜわしく泣く

虫の声淋しさ身にしむ秋の

夜長に 秋深し薄紅い萩の花雨上

りの午後涼風にゆれて

くりの実のマリモの様に美

しくころころころと二三

つ落ち

皆さんの努力の結果（平成8年4月～6月まで3ヶ月事業実績）

月	会員数	受託件数	就業人員		契 約 金 額			
			実人員	延人員	配 分 金	事 務 費	そ の 他	計
4	715	302	378	5,478	21,847,455	1,260,559	552,504	23,660,518
5	733	188	380	5,495	22,260,971	1,420,272	1,001,243	24,682,486
6	714	266	384	5,864	25,793,509	1,666,988	972,397	28,432,894
計		756		16,837	69,901,935	4,347,819	2,526,144	76,775,898
前年度同期との比較		+ 137		+ 1,239	+ 5,624,453	+ 534,189	+ 835,732	+ 6,994,374

増村初代理事長ご逝去

当センターの初代理事長増村敏雄氏が、去る平成8年8月4日逝去されました。享年82歳でした。

故人は昭和53年10月、当センターの前身所沢市高齢者事業団として県下で最初に発足を見ると同時に推されて理事長に就任、平成4年3月まで14年間の長きにわたり、センター事業の草創と発展に尽力くださいました。

衷心よりご冥福をお祈り申し上げる次第です。



(1) 婦人部主催 日帰りバス旅行

恒例となりました婦人部の日帰りバス旅行を下記により実施します。今年は秋の紅葉と温泉を計画いたしました。先着35名で締め切らせて頂きます。お早目にお申し込み下さい。

<日 時> 平成8年11月18日（月）

<行 先> 秩父市・小鹿野町方面（法性寺、クアパレスおがの、酒づくりの森など）

<集合場所及び時間> 旧市役所東口玄関前 午前8時45分集合

<会 費> 3,000円

<申込締切> 先着35名

(2) 平成8年度会員親睦旅行スナップ写真のお申込み

スナップ写真が出来上がり、センター事務所に掲出します。ご覧の上下記により事務所に申込み下さい。

イ. 申込期間 10月15日より～10月29日まで ロ. 代金 1枚50円～100円の予定

おとがき

恒例の秋季交通安全運動が9月21日より30日の間実施され老人の交通事故防止が叫ばれておりました。悲しいことながら高齢者の交通事故件数は年々増える傾向にあります。交通事故は加害者、被害者は相対的なものであり、加害者の罪は勿論ですが、被害者である高齢者の側にも不注意によるケースが多々あることも事実なのです。歩行者（自転車も含め）としての交通ルールをしっかりと守り、心に余裕をもって毎日を元気に過ごしたいものです。○横断歩道での横断は信号を必ず守る。○信号の無い所で道路の横断はしない。この二点だけでもしっかりと守れば事故は大幅に減ると確信します。一年、365日の毎日が交通安全運動日だと改めて再確認して頂きたいと思えます。（五社記）